

資料2

第4回 大津市立幼稚園再編等検討委員会 議事録（要旨）

1 日 時 令和7年10月27日（月）14時30分～17時00分

2 会 場 大津市役所 新館2階 災害対策本部室

3 出席者 委員 山縣委員長、中井副委員長、井上委員、狩野委員、中森委員、小森委員、
佐竹委員、早藤委員、藤井委員

（欠席） 大橋委員

事務局 こども未来部長、こども未来部次長

こども・若者政策課長、課長補佐、政策推進係係長、政策推進係主査、
政策推進係主任、幼保支援課長、課長補佐、幼児教育指導監、保育指導監、
市立幼稚園園長

4 傍聴者 6名

5 議 事

（1）大津市立幼稚園再編等計画の策定について

6 会議録（要旨）

（1）議事

※議事の公開・非公開については、公開とされる。

委員長：最初に前回の振り返りを事務局からお願いする。

事務局：資料に基づき説明

委員長：これまでの振り返りで、特に修正や重要なことが抜けているということはないか。前回特に議論いただいた給食のことについては、保護者サービスの向上に含めるという報告をいただいた。

それでは、本日の議論の中心の方に入っていきたいと思う。

第2章基本方針、前回の続きである再編基準のところから説明をお願いする。

事務局：資料に基づき説明

委員長：再編基準について、委員の皆様からご意見をいただけたらと思う。

委員：当初の基準の考え方は、1クラス35人という考え方を基準に、36人になれば18人ずつの2クラスになるから18人という数字だったと思う。国の動きで将来的には、1クラス30人になるとテレビで見たが、検討の中で示された数字はそういう意向もキャッチしながらの修正案として示されているのか、それとも従前から考えてきた考え方なのか教えていただきたい。

事務局：委員がおっしゃる通り今国の方で、1クラスの園児数の上限を30人に見直そうという動

きはある。ただ、前回に基準人数は定員の上限の数をもとに考えるのではなく、子どもの集団を何個作ろうという考え方を主にしていただいたので、この30人ないし35人という数字については、今回の内容には反映はされていない。ただ、それを無視するわけではなく、情報として頭に入れていただいて、ご意見をいただけたらと思う。

委 員 : 資料12で説明があった15人という数字はその情報も踏まえて作られたものか。

事 務 局 : ここに記載している数字に関しては資料作成上の参考的な数字である。

委 員 長 : 他、いかがでしょう。

委 員 : 先ほど説明があった給食に対する考えは大津市としてのものなのか、事務局が考えたもののかを教えて欲しい。保護者から給食があつたらいいなという話をずっと耳にしているが、給食をしないとどのように整理したのかずっと今まで疑念を持っている。

事 務 局 : 前回も給食の議論を頂いて、事務局としても非常に参考になったが、今後給食をするかしないかは決まっていない。この検討委員会では、再編を検討してもらって、どこを残していくのかを検討していただきたい。28園ある幼稚園をすべて維持するのは不可能であると皆様から意見を頂いているが、大津市としてどこに投資していくのかを検討していくなければならない。それが例えば1つは給食であったり、設備の面であったり、大津市が考えていく上で、集約をしてどこに投資していくのか。すべての園ではできないので、絞った形で投資をしていく。その中で給食のあり方については今後、検討していきたいと思う。どれぐらい集約されて、どれぐらい経費が浮いてきたら給食の設備に回せるのか、建て替えができるのかがあるので、まずは皆様には、残す園の検討をしてもらいたい。地域的にここは少なくとも残していくといけないといけないというようなところも出てくるとは思っている。まずは、集約するということを考えてももらいたい。給食やいろいろな意見については、その後の施策推進にあたっての、参考にさせていただきたいと思っている。

委 員 長 : 給食そのものが、再編の基準にはならない。ただ、将来的に給食については再編と無関係に、どうするかはまた別途、保護者のご意向を伺いながら考えていくという説明だったかと思う。

委 員 : 再編成をしなければいけないところにきていることは、この会議の中で重々把握して、学んできた。ここの場が再編成を検討する委員であることも重々わかっている。給食について上手にまとめていただいて、方針の中にも記載いただいた。やっていただいていることに何も違いはないが、再編成が必要なところに来ていることは事実で、それを前向きに考えたときに、実際のところ、人数でどこを置んでいくかという基準を問われている。大津市のすべての人が、どんな事情がある人でも行けるのが、公立の役割と考えたときに、人数で再編成しなければならないことはわかっているけれど、人数だけの基準で置んでいくという危険というか危なさというのをすごく感じていて、人数が減って、人数が減って、

畳んでいきます、畳んでいきます、となると残るところがなくなってしまうのではないかという考えになった。その時、給食がなぜ上がったかというと、再編成の対象になっている人数が少ないから減ってなくなっていくならば、どうしたら人数を確保できて、幼稚園を選んでもらえるかを考えなければならなかつた。人数が増えれば、再編の対象にならないから、グルグル回っていくとそこにたどり着いて、お父さんお母さんが公立幼稚園を選んでくださることが給食であった。少子化の中で選んで来てもらうための問題が解決すれば、再編成の対象になる園が変わってくるのではないかということで提案させていただいたことは、もう一度確認をさせていただく。後ではなく、というところ。公立の幼稚園の意味というのを、ここずっと考えている。どんな事情がある人も、大津に住んでいる方が、子どもたちをどう育てるかという課題をもっている。再編成を追求していくと大きな目標がないと、この会がどうも先に進めないという思いがある。数によって減っていくのではなくて、やはり大津の子どもを、就学前の子どもをどうやって育てていくか、地域の宝である子どもを育てていくかという視点を持っての再編成でなければならないのではないか。それを人数だけで言つていいのか。それを見直すことは、この会では難しいものか。大津の子どもをどう育てるかのプランがあつてこそ再編成であるべきで、最後どんな状況でも、あなたがどんな状況になっても行けるところがあるよつていうのが、市の思い、大事なところだと思う。それを、ここの人数が減ったのでここを畳みます、ここも畳みますとなつたら、どんどんなっていく。それで良かった時代はいいかも知れないけれど、今はそれをすると、どんどんなっていく。なぜなら、選んでいただけないから。でもそれを、その流れにだけ1個1個対応しているのでは、10年先も同じような状況であると読める。なくなっていくのをただ1つ減り、2つ減りとしたら、これはもしかしたら、大津市の考えとは違う方向なのではないかなという気がするので、ご検討いただけたらと思う。

委員長：貴重なご意見であるというのは理解した上で、ただ客観的なものある程度出さないとかなかなか説明が難しい。利用者の方々からいうとやはり残して欲しいと思う。それがなかなか難しい状況下であるときに、誰から見てもわかる基準をベースに考えたいというところだと思う。前回まであまり積極的には書けないというのがあったが、まず公立幼稚園にこだわる必要があるのかどうか。大津市の方針に基づいて育つ場所であるならば、公民、私立の幼稚園さんも含め、或いは保育所もこれから認定こども園化していくだろうというようなところで、大津市長が責任を持つ範囲内の子どもの育つ場所というように、もしありうるとすれば、第3段階で第2段階の途中から私はそうならざるをえない状況ではないかなと思う。例えば客観的なものとして数字を出すけれども、それ以外の要素もある。今までそうしてこられている。数字的には前回の基準を下回っている園があるが、現在でも

まだ残っている。そういう状況で、大きな目安であることは間違いないけれど数字だけが絶対条件ではないというのは、事務局的には地域事情等も勘案するというニュアンスはあるのか。

事務局：数字だけで判断しないという意見は、以前からもいただいている。もちろん目安となる再編基準の議論はいただきたいと思っているが、地域性は考慮して欲しいという意見だったので、大津市でも地域的に周りに保育園も幼稚園も全くないような地域であれば、そこは勘案をするという方向性で考えたいと思っている。全部を残すわけではないが、人数だけで切るわけではなく、地域性も考慮した形。今日議論していただいた内容も含めて、地域性を考慮させていただきながら、理由づけがしっかりできるようにして、素案を作つて皆様に議論していただけるようにしたいと思っている。

委員：ありがとうございます。幼稚園や保育園も一緒の子育ての就学前の教育と考えている。その中で、私立幼稚園の力も絶対借りていかないといけなくて、連携も大事だと思うのだが、実際のところ、私立に入園を断られたと聞くので、そういう方も受け入れていただけるのが公立幼稚園、公立保育園だった。もしも、こここの地域を私立幼稚園に託すとなった場合は、連携をとって、その役割をそこにお願いするというところまでをきっちりして、公立がなくなても、誰でも行ける、どんな状況でも行ける、受け入れていただけるっていうところを大切にしていただきたいなと思うところである。

委員：委員が言ってらっしゃるのは、どうしたら公立幼稚園が選ばれるのかということをもっと真剣に考えていった方がいいということで、その中の1つに給食も考えて欲しいということだと思うが、今の状況としては、もっと早くにこのことを考えていたら、残れたかもしれないが、今どんどん子どもが減ってきて、幼稚園が就労的な部分も含めて選ばれなくなっている。現場では今年から預かり保育を5時半までやっているが、そのこともまだPRが十分にできていない、私も地域の住民の1人として、幼稚園にわからないよって電話をしているぐらい。今これだけ子どもの数が減ってきている状況の中で、やはり整理をしていく必要性はあるだろうと考える。整理をして、第一段階、ものすごく急速的に子どもが減っている。もう本当に2年3年で全然違ってくる。だから早くに手をつけて、早くこの整理をして、そして、ある程度整理ができたところで、この整理とともに何をしましようという。そのときに給食もやってくださいと。駐車場もない、幼稚園は駐車場がないので送つてこられない。そういう問題がいっぱいある。子どもが育つ良い環境づくりを、その時に一生懸命考えましょうということが書かれているので、一旦規則や基準を設定していく必要性はあるのかと思う。委員がとても心配してらっしゃるのは、やっぱり公立を残して欲しい、この思いが私は聞いていてすごく伝わってきた。数が少なくなつても公立は公立の役割がある。歴代の市長さんが共存共栄っていう言葉を使っておられた。保育園

は、共存共栄しましょうという言葉を使ってらっしゃるので、私はそのことが大事だと思う。全く公立をなくしてしまうのではなく、やはり公立とそれぞれの良さを、機能を活かしながら、共に手を取り合ってやっていきましょうというような基準や概念、信念に立つて、行われていくということが大事なことかと思う。

委 員：編成はもちろんしなければならないと思う。大津のどこでもあなたを受け入れる公立はここですよと言える公立でないといけない。今28園あるところが15園とか極端に減るかもしれないけれど、今こここのブロックでここを残しましょうと議論できるぎりぎりのところにいると、委員をしていて感じているので、そのお願いでした。

委 員 長：目安となる客観的基準は検討するけれども、その他の要素を再編においては考えていく。それは議事録にもしっかり残していただきたいと思う。ではその上で、基準ですね。1つは年齢、1つは、人数ということになる。今までの議論の中では、以前の基準は3年保育の実施直後ということで4歳児が基準となっていたが、3歳に下げていくのかどうかというのが1つのポイントだったと思う。人数問題で、これは国基準とは切り離してということは確認されたが、前回18人という数字を3歳を軸に考えるならばもう少し下げてもいいのではないかということで15人や16人という数字が出てきている議論だと思う。これについていかがか。スタート時点では、基準はあまり変えないという提案だったが、意見が出てきているので、確認をした方が良いと思う。

委 員：現場の感覚だが、3歳児を基準にして考えると18人だと多いと感じる。16人でも結構しっかりした人数がいるという感じがするので、15人の第2案でいいのではないかと思う。そんなに15人が少ないとは感じない。前回グループのことも話題に出たと思うが、5人を3グループという意見も出ていたので、15人でどうか。

委 員 長：委員の皆様いかがでしょう。

委 員：小学校では、40人学級から35人学級になった経緯がある。1年生を35人で見ていたが、今は30人でもいいのではないかという意見がある。低年齢の集団の数を大きくするのが大変になってきてるので、国が35人から30人に基準を見直すことを考えているのは妥当だと思う。30人という数字を妥当だとするのならば、4歳児5歳児で30人を2クラスに分けて15人という考え方もできるのではないかと思う。

委 員：現場をよくわかっていないが、私の感覚では4歳くらいから幼稚園に行く子が多いという感覚だが、どうなのか？

委 員：3歳に入る方が圧倒的に多くて、4歳に入る子はそんなにたくさんはない。

委 員：少しあは増えるのか。

委 員：少しあは増える、1人か2人くらい。

- 委 員：4歳児で1人でも2人でも増えるなら、3歳で13人としても4歳で15人くらいになるらしいのではと思った。
- 委 員：正確な数字は事務局が把握していると思う。
- 事務局：資料1の21ページに記載のとおり、直近の園児数の推移で言うと、3歳から4歳にかけては、1園当たり平均で1.3人増える。4歳児から5歳児にかけては0.7人増える。園によって、確かに差はある。転入人口の多い地域とかであれば、5人～6人増えるところもあるが、全く増えないという地域もある。
- 委員長：事務局の説明からすると、年齢によって大きな変動はないということになる。そういう意味では、3歳から入っておられるという現実を考えたら、3歳で考えるほうが市民的には分かりやすいかもしれない。
- 委 員：3歳で2人引いて13人というのが理にかなっている気がする。
- 委員長：3歳を基準とすると、4歳で園児数が増えても、資料12の表には影響しないということだと思う。子どもの集団という見方の方が、これまでの議論からすると筋が通る感じる。前回までの議論で言うと、現場の方々の根拠で言うと、グループ数というイメージで語っておられた数字が、15人ないしは16人だったというふうに理解している。
- 委 員：多分3歳児だとグループはできていないと思う。やはりグループができるのって5歳児が多いかなと思っている。
- 委 員：グループというか、仲良しさんかな。いつも遊んでいる子が、2人で遊んでいることあれば、3人で遊んでいる、4人で遊んでいるときもある。私のイメージしたら、5人というより、3歳児であれば、3人ぐらい、多くて4人ぐらいという感覚である。そのグループがいくつもあった方が子ども達の育ちには良いと思う、その視点を大事にしていかないといけないと思う。
- 委 員：国の基準が30人になるよう働きかけがされていることは事実。集団の捉え方もいろいろある。いろいろな市町村の教育委員会は内規的に定員を30人や25人などにすることはしている。大津市教育委員会ではまだできていないと思うので、ここでいろいろな議論になっているのだと思うが、そのことも踏まえて、働きかけがあるという見通し的にはそうなるだろうという予想の元に、30人の半分で15人というところが妥当なんではないかと思うがいかがか。
- 委 員：ものすごく物分かりの良い考え方というか、市の方に寄り添った感じになるが、中学校区にいくつかあるところを一つにしたいと思っているのだろうが、減らして1個ずつのところをレベルアップ、施設を良くしていく、それの方がよそから子育ての方を呼べるのかなと思ったりする。今いる人はもうだんだん大きくなつていって、子ども

は少なくなっていくが、たぶん大津市の問題としては、滋賀県は今すごく人気があると思う。草津とかもたぶん多くなっていると思うが、大津市が自分たちのところに呼び込めるだけの幼稚園が作れるかっていうような、そういう考え方で物を考えただけたらいいのかなと思う。例えば、近所に引っ越してきた人であれば、大きな民間の認定こども園があるが、もともと市立幼稚園に通っていた子どものうち、8～10人くらいしか入れなくて、残りの子は他の保育園に行ったり、再編後の市立幼稚園に行ったり、でも再編後の市立幼稚園に行った人の中でどんどん人数が減ってきているという感じになっている。でも、再編後の市立幼稚園もいいですよ、あの辺は神社もあるしあ寺もあるし、花見もできるしということをおっしゃる。そういう意見も出てくるので、本当に人が集まる幼稚園を残していくのがいいと思う。小さい園もちゃんと受け入れられるようなところを残すっていう考え方。むやみやたらに減らすより、受け入れるっていう考え方必要ではないかと思う。

委員長：先程からの、魅力をどう作っていくかという考え方になるかと思う。それはここの議論そのものではないので、これは市として、全体でどう考えていくのかだと思う。

委員：基準を12人にした場合、どれくらいの園が対象になるのかなどを示してもらえないか。

事務局：作れなくはないが、大津市としてもやはり一定の集団規模を作っていくたい。例えば3歳児であつたら、3～4人のグループが4つぐらいある、それをまず作っていきたい。そのためにこの基準を作りたいと考えている。確かに、12人にすれば大体これぐらいになりますよっていうのは作れるが、全体的に残る数を見て議論していただきのではなく、それも大事かもしれないが、まずは一定の集団規模ってどんなものだろう、大事にしないといけないのは地域性の考慮、小規模の園でも残さないといけない園というのは今後の議論で出来ると思うが、まずは、4歳児で18人ずつこれまで再編してきているが、それについても一定の根拠を持ちながら実施している。やはりこの人数にするという一定の根拠を示していきたい。

委員長：皆さんの意見を聞くと、3歳を基準にしたほうが良いという意見が多い。そのうえで、18人でなく、少し下げたほうがいい。その数字が皆さんバラバラのような状況であるが、皆さんの意見を聴いていると、質的な要素が勘案事項として出ているが、量的な要素で、4歳、5歳で増えていく園があるとするなら、そこも勘案してほしい。3歳を例えれば15にしていたけれど、4歳児になつたら毎年2～3人増えてきますよということになると、3歳が14になってしまったかもしれないが、4歳、5歳のところで15～16人いますので、ということも勘案しましょうということだと思う。だから、数字的な部分も単純に切っていかない、それぞれの園の努力や保護者の

方々の公立幼稚園に対する魅力とか、そういうものを並行して作りながら、利用者が増えるならば、3歳以外の要素もちょっと入れますよというぐらいのところかと思う。

委 員：現場感覚で、その数字が子どもにとってどんなものなのか。3歳児のグループで、集団として考えると、教育的な環境として良いのが3人くらいということだったが、公立幼稚園はどんな人でも、断られた人も受け入れている、個人的な対応が必要な方も受け入れている。そこを踏まえると、人数の基準は、公立はもっと配慮が必要なのではないかと思う。そこから12人がいいのでは。

委 員：何人がいいかは難しいが、私の知る範囲で状況を説明すると、私立に入れなかつたというのは、定員の問題もある。その場合はお断りするが、第2希望、第3希望の園に行かれると思う。その中で公立の幼稚園に入られる方で、第1希望の人、そうでない方もいると思うが、その中で子どもの人数を一定数保ってあげるのが教育として大事だということだと思う。その人数を具体的に何人かというのが難しい。

委 員：良い環境というのは理解しているが、人数は少しでも下げたい。

委 員：良い環境というのをどのように定義するのかを考えると、やはり多様な経験だと思う。うれしい、楽しい、かなしい、我慢する、全てが含まれている。子ども同士がやつたりやられたりする中でだんだんと認め合っていく。相手の気持ちも受け入れていく。怪我でも小さな怪我ができるところ、そこから危機管理能力をつけていく。友達とも喧嘩をして、喧嘩の仕方も教えないといふ反省もすることを教えていかないといけない。そういう多様な経験をするためには余り少ないと難しい。

委 員：少なくとも保育はできる。ただ、10人を下回った園に、新入園を考える家庭が来ようと思うのか。

委 員：その視点も大事だと思う。

委 員：これまでの基準で再編された地域の者として、我が子が通っていた時は15～16人いた。親の気持ちとしては20人くらいほしいというのが本音。本当に子どもの育ちや環境だけのことを考えると20人くらいの方がいいと感じる。ただ、今ある幼稚園の数を減らすとなると、本当に心が痛い、そう思うと13人くらいでもいいと感じる。

委 員：子どもが育つっていうのは、子ども同士の中で、模倣行為を通して育ち合う。だから何人がどうというのは難しいが、2人称の関係から始まっていくので、それを基準に考えていくと良いと感じている。様々な子どもさんがいらっしゃるので、その計算通りではなくてそれぞれの良さを生かしつつっていうふうに考えると、やはり15人か16人なのかと思う。だから、質的なことはなかなか論じるのが難しい。どこかに基

準を置いて、根拠になるものがきちんないと行政的にはなかなか通らない。もやもやした気持ちは私も一緒だが、どこかで基準を置いた方がいいのかと思うと、15人ぐらいが妥当なのかという風に思う。

委 員：現場の感覚的にはやはり、今、委員がおっしゃったように、3歳児で、15人、16人ぐらいが適正なのかなっていうのが正直な感覚。

委 員 長：これまでの基準と比べるとかなり緩やかになっているのは間違いない。

委 員：保護者の方によつては、15～16人を多いと感じる方も、少ないと感じる方もいるため、正解とかではないが、現場の感覚としてそのように感じる。

委 員 長：私が専門でないという大前提の上で、日常の遊び、仲間と、やはり少し大きな集団を相手にしたような、遊びというか行事というか、というのを考えたときに、あまり小さかったら行事そのものが成立しなくなる可能性も一方ではある。私の中では気にはなる。

委 員：3歳児の15～16人の子たちが、4歳、5歳になったときに何人くらいになるんでしょう。1人か2人しか増えない。5歳児で17～18人くらいになる。それが今度小学校にあがって、30～35人になるのか。

委 員：地区にもよる。

委 員 長：3歳児を基準に15人で、まずは案を作つてもらうというのはどうか。

委 員：心情的にはもっと絞りたいが、そうすると魅力が作りにくくなる。施設を強化したりなど、大津市が目指そうとしているものを実現するのであれば、それに期待を込めて、決めておかないといけないと思う。

委 員 長：私的なことを言うと、小学校が3年生の時に廃校になった。子どもとしての遊びはほとんどなかった。合併した小学校が5キロくらい先にあって、朝1便夜1便のバスが出るが、そのバスに乗り遅れると2時間かけて歩いて行く。でもそこに200人の子どもがいる。とても楽しかった。でもその小学校が今は20人ぐらいしかいない。地方の少子化はものすごいことになっている。大津はまだ耐えられる力があると思うが、きっと資料12に記載の数字がもっと減っていくのではないかと、この形で維持できるというのはそんなにないのではないかと思う。基準を15人にすることで、その間に一生懸命魅力を作つていただきたい。自分の経験からすると、大人は残したいと思うけど、子どもがそう思っていないかもしれない。自分の経験で言うと、やはり一定の集団規模は必要だと思う。遊びとは非常に重要なので。子どもの遊びを考えたときに、3歳児の遊びと5歳児の遊びはものすごく変化していく。5歳児あたりがあまり少なかったら、チームとしての遊びが、あまりしづらくなるんだろうというのは、正直思うところ。

委 員： 第1回の資料で、大津市の現状というところを見ると、3歳、4歳、5歳と園児数を見たとき、3歳児が少なくなっている。これから入ってくる3歳児を基準にするより、現在幼稚園にいる4歳児を基準にした方が良いように感じる。分かりやすいように感じる。

委員長： 根本的にはあまり変わらない気がする。数年後には同じことになると思う。

委 員： 4歳児になったときにたくさん増えるならその論理はいいと思う。現実、増えない。現実問題として、育休とか産休明けたら子どもたちがどこかにいっている。なぜなら、家にいても、友達できないし、子どもたちはみんなどこかで遊ぶという現状の中で、社会増でどこかに団地が建つとか、何かそういうこと以外は増えないかなと思う。そうすると一緒になるのかなと思う。早いか遅いかだけの問題で。

委員長： 3歳については確定させてもらいたい。そのうえで、3歳児で15人という基準で考えて、ただし、これについては先ほど言ったように柔軟性はあると。質的にも量的にも柔軟性を持たせる。加えて、公立幼稚園さんの利用者が増えていくような努力も並行して、別途検討いただく。また、再編とは全く関係ないが、定員以外の理由で断られるというのは、特定の条件下で排除するようなことは、市の権限の範囲で指導が必要だと思う。3歳児15人という数字で、柔軟性があるということをきっちりと明記していただくという形で案を作っていただき、また今後、ものすごく変わった条件が出てきた時の要件があれば、その時にまた考えていくという風にしたいと思う。

委員長： それでは次の説明をお願いする。

事務局： 資料に基づき説明

委員長： では、先ほどと同じように、まず意見をいただきたいと思う。中学校区というイメージで考えるか、小学校区か、少し委員の意見が分かれていたと思う。

委 員： 民生委員なので福祉ブロックに馴染みがあるが、中学校区が分かれてしまうので、中学校区の方が良いと思う。

委員長： 計画策定時でどうかということだが、これも事情が変わっていくこともあるので、なかなか確定した説明はしづらいかもしれない。仮にどこでやったとしてもきっと、いろんなことが起こってくる。基本的な考え方として議論してもらいたい。

委 員： 1つはやはり、ゆっくりして欲しいという気持ちもあるが、もうすぐなくなるかもしれない園に長く通い続けるとか、この先どうなるんだろうかっていう不安を抱えながら通い続ける期間が長くなるのは、保護者や子供たちにとってあまりよろしくないのでないかなと思うと、そうするって決めたのなら、なるべく、早く5年とか10年とかではなく、やっていった方が良いのではないかなと思う。延ばせば延ばすほどやはり悩みが大きくなるというか、地域の方もすごく落ち込まれたりとか、園児を増やすために一生懸命になら

れてとか、いろんなマイナスなことを考えてしまう。私としては、できるだけ長く延ばしたいと思うが、この2つの気持ちがあるのが正直なところ。

委員長： そうすると計画策定時と中間見直し時と書いてある、こんな感じなのか。あまり先送りしていても、住民が変わってしまう可能性もある。

委員： 子どもがもっといなくなると思う。だから、早く。あまり長く延ばしていると、再編したけれどまた子どもが減ってきて、違う園と引っ付けないといけなくなる。

子どもの推計を見てもどんどん減っていると思う。社会増がない限りは。だから、不安もあるが、再々編成、再再々編成というのがいっぱい出てくると思うので、子どもがいる間に、いろんなことを考えてやっていった方が良いと思う。

委員長： 兄弟があまり増えない状況下で今の利用者は3年後にはいない。誰に説明したのかよくわからなくなってくる。毎年コロコロ変わるとこれはさすがにいかがなものか。

委員： もうなくなる対象なんだよと告げられた段階で子どもたちの不安、その保護者の不安と、もうそこに期待が全くできない状況で自分はどうしたらいいかを考えると、少しでも早い方がいいのではないか。ガタッと減るのは目に見えている。その時にやはり、園長先生も多分、保護者に言われるのが一番大変で辛いことだろうと思う。地域の者もそれを告げるのがとても難しいと思う。けれど、その時に計画でありプランがあれば、それをもって、大津市が言えて説得できるようにしていただけないかというのが、住民の思い。給食のこともいろいろ言ったが、子どもを全面的に考えて、この選択の先にはこども園もあって、私立も、公立もすべてが連携していかないといけない。数少ない子どもの取り合いではなくて、一緒に大津の子どものことを考えていく方向に持っていくかといけないと思う。

委員長： 未来が潰れるという説明ではなくて、こうやって育っていくんだということ。その中で、幼稚園がこう変わっていく、変わらざるをえないという説明のストーリーを事務局でしっかり考えていただく。地域の方々の事情もあるだろうし、説明の仕方も変わってくる可能性もある。このところはこれでよろしいか。

事務局： 資料に基づき説明

委員長： 前回資料8の検討ということになる。いろいろな場合分けがされている。周辺施設状況において場合分けされているということだが、何か気になる点はあるか。

委員： 保育園のことが出てきているが、保育園があった場合、公立園同士の再編等検討と書いてあるということは、保育園と一緒になることも考えられると捉えても良いのか。

事務局： こちらのフロー図に関しては、あくまでも選択肢の1つとして挙げているだけで、こども園に必ずなるというものではない。そういう選択肢もあるということで、検討という形にしている状態。

委員長： 公立園も必ずしも多くなかったというのが大津の現状で、公立幼稚園はたくさんあった。

ただその中で、あんまり積極的にはこれまで議論できていなかったが、この公立のこども園というのも、再編成の中にはニュアンスとして入っているということ。そうなると、近くで行けるところがより確保しやすくなるから、保育所が認定こども園になっておられたら、きっと保護者のイメージが公立にこだわるか、近さや給食にこだわられるかによって、私立の認定こども園ということも、保護者の選択肢の中には、一部入ってくる可能性がある。ただそれは非常に危険で、公立の利用者をますます減らす可能性もある。危険と考えるかどうか別だが、維持したいという考え方でいうとそれが逆になってしまっている。

委 員：保育園がこども園になるチャンスもあるのかなとちょっと期待もしてみたりしたが、大津市も長いので、中学校区の市立幼稚園数と私立幼稚園の数は影響しないのか。先ほど意見があったみたいに、公立の園は、施設がない地域に残すべきだという案があったのが納得で、大津もいろいろなところがあって、公立幼稚園以外にもたくさん入れる施設があると思う。ただ、やっぱりどこかに行くところがあるっていう考え方だと、大津市と私立園の関係性ができていないと難しいと思うのが、中心地の方だと思う。逆に行くところがないという状況が起こるのは、行きにくい、住みにくい、少ないところなのかなというところもあるので、この数に保育園を期待していいのであれば、こども園に合体する可能性が残されているということで挙げていただいているのであれば、すごくいいなと思った反面、私立園の数も考慮に入ってきても良いのではないかと思う。

委員長：私立園についてもフローの中に入っていると思っていたが、事務局どうか。

事務局：このフローの中には私立園は入っていない。最後の1行のところでそういうのを勘案するとしている。

委 員：そこが重要なと思っていて、たくさん施設があるとこではなく、あえて行きにくいところの地域、住民人口が少ないところに公立を設けて、私立園と協力し合えば、子どもたちの居場所を作るという大きい目的は達成できるのではないかと思う。

委員長：おそらく10年後には、一番下の米印のところがすごく意味のある文章になっていくのではないか。子どもが減っていくという状況を考えると。委員が言われたように、子どもの育ちの場をできるだけ保護者が良いというイメージの形で残していきたい。それが、大津市が設置者ではなくなっている可能性があるということかなと思う。スタート時点では、色のついた部分の想定だけではなく、文字化されてる部分も並行して考える中身であるということ。ここはそういうことでよろしいか。では、続いてお願いする。

事務局：資料に基づき説明

委員長：1番は決定ということで2番目のところ。参考となる情報例が出ているが、それも含めて、優先順位ということに繋がってくるということではないかと思う。全体スケジュール

は資料12である程度見てもらっていると思うので、2と3について、関連させながらご意見があればお願いしたい。

委 員：ここに書いてくれている通り駐車場や施設の老朽化、園児の通園距離だと思うのですけれどやっぱり大津市立幼稚園の魅力というと、園庭が広いのがやはり子どもにとっては魅力かなと思います。

委員長：園庭も1つの基準にと意見があった。

委 員：どこの幼稚園もそれぞれ歴史の中ですごく園庭に力を入れてきている。傾斜があったり、広いとか狭いだけの問題ではなくて、子どもが遊ぶことに魅力的な環境づくりを、PTAも含めて歴代の皆さんがやってきてくださった。だからやはり専門家の遊び環境として何が良いのか、ここを潰すのはもったいないということがある。そういうことも考慮して、園に作られている環境、木々や高低差とか園庭も含めて、いろいろな意味の環境があるので、そこを十分配慮して欲しいなと思う。

委員長：これはもう子どもの育ちにとって非常に重要なポイントだと思う。仮に2つどちらかになったときに移行できるものがあればいいと思う。ぎゅうぎゅう詰めだったら困るが、新しい形の環境整備、それが現場の先生方としていただくということが大切かと思う。

委 員：人数が足りなくなり再編対象になった幼稚園と、人数が大丈夫な幼稚園が同じ中学校区にあった場合は、吸収されることがあるのか。それとも、もう人数が足りているところは置いておいて、もう1つ少なくなったところがあつたらそこと一緒にすることか。

事務局：吸収はあり得る。

委 員：吸収はあるということですよね。日吉台、雄琴が吸収されたみたいな形になっているので、坂本幼稚園がその例だと思う。広い土地の幼稚園が人数が少なくなって、今ちゃんと人数がいる園よりもそちらの方が施設も良く広いとなった時に吸収されてしまうこともあるのか。その場合、まだ人数がいる園にとっては、なんでそっちの遠いところに行かないといけないという思いになるが、その可能性はあるのか。

委 員：ものすごくここを大事にしたいなと思うところで、ただ、今私たちがここで話し合えるのは、この辺を注意深く調べるべきだということであって、実際は、その地域に暮らしている方、園に携わってる方が、しっかりと話し合ってもらわないと出てこないのでないかなと思う。地図を広げて見て、こことここって思うが、実は高低差があったりとか、いろんな条件が出てくると思うので、そのことをすごく話し合ったことをまとめて、いい結果を選んでいただきたいと思う。ここでは項目だけしか挙げられないと思う。

委員長：委員がおっしゃるとおりで、屋外環境の話が中心なっているが、屋内、教室内も含めて、環境が非常に重要であるということをまずしっかりと押さえて、変化して欲しい。今のままで維持するのではなく。季節によって、或いは子どもの人数によって、今年のテーマによ

って、室内空間を何ヶ所か変えていると思う。それと同じように、外部環境も維持するという発想ではなくて、新しい形。良い部分の方が残念ながら縮小する、吸収されたのであれば、そこにあった良さは、新しいところで実現できるのかどうかというのをきっちり検討いただく。それが大前提ではないかな。そういう方針をきっちり持って欲しい。大きな木がすごく思い出残ってるよねとかあると思う。そういうものを保護者の方とか地域の方に聞いていただきながら、新しい環境を再編とは関係なしに、それぞれの園が考えるべきことで、新しくなったところはより考えるべきだという形で、環境については考えていたくということでいいのではないかと思う。

委 員：自分たちのところがなくなるということが前提にこの話が来ると、やはりそのことが当事者になるとショックだと思う。だからそうではなくて、プランがあって、こういうためのことなんだってことを説明し、納得してもらって、当事者の地域の方が、この先の大津のこと、住んでいる人のことを考えて、難しいとは思うが、ここにしようっていう話し合いをして、選んでいけるようなことができれば、ほったらかされるのではなくて、切られるのでもなく、自分たちで作っていかれるという認識を持っていただけるのかなと思う。

委 員 長：今の意見を否定される方はいらっしゃらないのではないか。
実際に計画が進んでいくことになれば、園同士の話し合いの中で、それぞれの良さ、どこをどういった形で継承していくのか、吸収した方の考え方方が正しいという発想ではなくて、両方合わせて新しいものを作っていくこと。保護者向けにもきっと説明しやすいかなという感じがする。優先順位というところはどうでしょう。一律に、決めづらいという感じがするのはするが。さっき言った、住民の方や利用者の方、卒園児の方等で、優先順位が違ってくる可能性があるから、一律に優先順位を決めるよりも、参考情報という部分含めて考えていただくという方が現実的かなと思う。話は変わるが、各園、老朽化という話があったけれども、耐震問題はすべて解決しているという前提でいいのか。

事 務 局：耐震はできている。

委 員 長：再編と関係なく、環境整備は、子どもの育ちとして重要なので、全く別の次元で考えていただく。すべての園、再編の対象にならないところも環境問題はきっちり考えていただくということでいいのではないかと思う。今の利用者と将来の利用者、両方のことを考えていただきながらお願いする。

次の4章最終章の説明をお願いする。

事 務 局：資料に基づき説明

委 員 長：実際の実行として、モデル図、スケジュール図を書いていただいた。このような形で進めていく。第1段階と第2段階に分けて、おそらく第1段階のものが、当基準によって出てくるという形になると思う。この間は、今の利用者が不安にならないように、配慮して欲

しい。新規募集の方々は覚悟してこられると思うが。2年分のすでに利用している方々がいる。

委 員 : 募集停止がかかって、5歳児だけの年があるのか。

委 員 長 : 毎年、1学年ずつなくなっていくとそうなる。

委 員 : それは結構寂しいな。

委 員 長 : 配慮が必要だという。学校の閉鎖というのは、今、幼稚園と同じぐらいに進んでいるが、公立高校が同じような形でされている。

委 員 : 例えば、兄弟で上の子が入ってるが、もう募集停止されて下の子は入れないってなると、ちょっと寂しいし、お母さんも大変で、2つに分かれないといけない。それだったらなくなる年に、そのまま違う幼稚園に移行できる。保護者が、上の子も卒園したし、下の子だけだったら保育園に入れて仕事行くわ、みたいな人もいるかもしれないが、途中でなくとも、次のところには入れることがちゃんと約束されている方が良いと思う。1学年だけが1年間、数少ない15人以下の人数で残っているというのは本当に寂しくて悲しいなと思う。その子たちの保育の環境は良いと言えないと思うので、募集停止はあまり良くないかなと思う。

事 務 局 : 今いただいた意見、とても大事なところだと思っている。29ページで説明をさせていただいたのは、例えばABCをBに統合することを、事務局案の提示をさせていただいて、その案で良いかまでを皆さんに決めてもらいたい。今委員が言われたことは、保護者の方にしっかり説明して決めていかないといけないことなので、それは計画に盛り込まず、しっかり保護者の意向を聞いて、進めていこうと考えている。今言っていただいた意見を参考に、保護者の方のお気持ちに寄り添いながら説明をしなければいけないと思う。5歳児だけ残って下の子だけ違う園という影響も出てくるので、そのことは計画では決めずに、しっかり検討していこうと思うので、再編のところまでよろしいか。

委 員 長 : 今の利用者に対しての配慮というのは、相談も含めて、場合によっては早めに新しいところを探して欲しい、Bの園に行くとするならば、Bの入所枠をきっちり確保してあげるとか、或いはB以外のものだったら、他のところでいいという方もいらっしゃるだろうし、今の利用者に対する配慮をどこかに書いて欲しい。残念ながら、閉園するとなると、募集停止はやらないと利用者が混乱されると思う。

委 員 : 実際に保護者はどんな形でこのことを告げられるのか。なくなるというのを告げられて、説明があって、そして、今言ってくださったみたいに、今の利用者に寄り添った判断として、その希望を聞いてくださるということなのか。再編を知った段階でどこかに行くのはありということか。

事 務 局 : まだ、具体的なところはこれから考えていきたいとは思っている。先ほど例で出していた

だいたい通り、上のお子さんが、4歳児のクラスで次、2歳のお子さんがいて、来年入ろうと思っているけれど募集停止になった場合、どうしたらいいのだろうというところがあると思う。そういう相談として、近くの園のご紹介とか、4歳児さんで次残られて、5歳児と3歳児になった場合はどうなるんだとか、それだったら2人一緒に園がいいので、例えば近くの保育園に変わりたいとか、統合される予定の幼稚園に2人いっぺんに変わりたいとか、そういう相談が出てくると思うので、それを1つ1つ、もう少し整理をさせていただいて、丁寧に保護者説明会のときに提示させていただきたいと考えている。

委 員：最後の年長さんが卒園して最後というのもありで、一斉に移行ということもあるか。

事務局：今までではそうだった。一斉に来年3月をもって終わりなので、こちらに皆さん行ってくださいという。

委員長：これも、そこは保護者の意向を尊重するしかないんではないかな。こちらの意向でこうすべきだというわけにはきっといかない。

委 員：資料としては、この資料はすごく見やすいと思うので、これでいいのかなと思う。

委員長：今日一応議論としては、最終回でこれからまとめていただくということになると思うので、言い残したことはあるか。議論を覆してもらうとややこしいが、資料が欲しいというのであれば大丈夫かと思う。

特になければ、これで第4回の検討委員会を終わらせていただく。

(2) 閉会

以上